

平成28年度 道路安全性検討委員会 開催概要

■日時：平成29年3月9日（木）14:00～16:00

■場所：新潟国道事務所 B棟2階大会議室

■議事次第

1. 開会
2. 規約の改正について
3. 議事
 - (1) 今年度の事故ゼロプランの取り組み状況
 - (2) これまでの成果と課題、今後の目標（案）
 - (3) 生活道路の交通安全の確保に向けた取り組み（状況報告）
4. その他
5. 閉会

■出席者（敬称略）

- | | | |
|------|---------------------------|---------|
| 委員 | 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 | △浅倉 有子 |
| 委員 | 公益財団法人新潟県女性財団 理事長 | △大島 煦美子 |
| ○委員 | 長岡技術科学大学 大学院工学研究科 教授 | 佐野 可寸志 |
| 委員 | 株式会社新潟日報社 取締役 | 鈴木 聖二 |
| 委員 | 一般社団法人新潟県ハイヤー・タクシー協会 専務理事 | △鈴木 久夫 |
| 委員 | 公益社団法人新潟県バス協会 専務理事 | △高橋 清吉 |
| 委員 | 公益社団法人新潟県トラック協会 専務理事 | 浅間 博 |
| 委員 | カミフル・サイクルステーション | 高橋 正良 |
| 委員 | 有限会社ミカユニバーサルデザインオフィス | 中村 美香 |
| 委員 | 新潟県警察本部 交通部 交通規制課長 | 伴 孝之 |
| 委員 | 北陸地方整備局 道路部 道路計画課長 | △東 佑亮 |
| 委員 | 北陸地方整備局 道路部 道路管理課長 | △吉田 英治 |
| | （代理）北陸地方整備局 道路部 建設専門官 | 木村 一幸 |
| 委員 | 北陸地方整備局 新潟国道事務所長 | 大江 真弘 |
| ○委員長 | △欠席 | |

【オブザーバー】

- | | | |
|------|------------|--------|
| ・新潟県 | 土木部 道路管理課長 | △山ノ内 久 |
| ・新潟市 | 土木部 土木総務課長 | △高橋 昌芳 |

議事要旨

平成28年度 道路安全性検討委員会

■委員会での審議事項

- ・平成28年度道路安全性検討委員会審議事項
 1. 今年度の事故ゼロプランの取り組み状況
 2. これまでの成果と課題、今後の目標（案）
 3. 生活道路の交通安全の確保に向けた取り組み

■審議内容

- ・平成28年度道路安全性検討委員会審議事項

1. 今年度の事故ゼロプランの取り組み状況

<説明内容>

- ・事故ゼロプランの進捗状況、目標達成度評価、事故危険区間の追加選定、広報について説明。



<委員からのご意見>

- ・対策効果評価の経過観察判定区間、要追加対策区間の判定理由について教えてほしい。



<事務局の回答>

- ・国道17号東川口は、所轄警察より対策後も対策実施区間の上流側から事故が多発しているとの意見を頂いたことから、追加対策が必要と考え「要追加対策」と判定、今後追加対策の検討を行うこととしている。
- ・国道8号堺西交差点は、対策後に事故が減少したが依然として事故率が高いこと、国道17号八幡交差点～八幡橋は、所轄警察よりH28年に事故が多発しており経過観察が望ましいとの意見を頂いたことから、それぞれ「経過観察」と判定している。

2. これまでの成果と課題、今後の目標（案）

<説明内容>

- ・事故ゼロプランのこれまでの取り組みの成果、振り返り、今後の目標（案）について説明。





<委員からのご意見>

1. 新潟県内の直轄国道で発生する死亡事故件数の推移はどうなっているか。もし減少していない場合は、それを今後の目標として組み込んだほうが良い。
2. 事故危険区間の削減率について、この結果をどのようにとらえればよいのか。改築事業実施区間や、事故対策実施区間と未実施区間との比較等で示すことはできないか。



<事務局の回答>

- ・事故削減率の分析については、様々なパターンで検証している。今回意見があった分析方法も含めて、多様な視点で分析を行っていききたい。

3. 生活道路の交通安全の確保に向けた取り組み

<説明内容>

- ・生活道路の交通安全の確保に向けた取り組みの概要、市町村への技術的支援の内容、追加の対策エリア登録状況について説明。



<委員からのご意見>

- ・なし

4. 全体を通して

<委員からのご意見>

1. 新規選定区間が挙がらないという点に関しては、自治会の交通安全部会などで事故ゼロプランのPRも兼ねて市町村と合同で取り組んでいくことも必要である。
2. 道路空間そのものに関しては、意見を言う場がほとんどないと思うので、市民のみなさまが参加する大規模なイベント等でそうした場を設けるのが良い。
3. 最近では、逆走事故や高齢者の交通安全対策など、新しい問題への対策も求められている。その時代に合った対策が必要と思うので、警察としては事務局から提案をいただきつつ、協働で進めていきたい。
4. トラック協会では、1万台あたり死亡事故2件/年以下を目標に取り組んでいる。具体的には、各事業所や各ドライバーへのアンケートを通して、危険箇所の周知徹底、意識向上などに取り組んでいる。安全運行の面では、警察のご指導のもと進めさせていただいている状況なので、道路管理者に対しては、トラックの通りやすい道路改良などよろしく願いしたい。
5. 死亡事故や重傷事故などのミクロな分析もあっていいのではないかと思う。
6. 事故件数が減っているのはいいことだが、それがどういう要因で減っているのか明確に分けることは難しい。だが、分けられる部分もあると思うので今後検討していくことが必要と思われる